

「令和4年度鹿児島県立奄美図書館運営に関する点検及び評価」

鹿児島県立奄美図書館基本的運営方針

(令和2年3月策定, 取組期間: 令和2年度～6年度)

【鹿児島県立奄美図書館の目指す姿】

人づくりに貢献し, 成長し続ける図書館 ～支える・役立つ・つなぐ・育む～

【基本目標, 重点取組事項】

＜基本目標1＞

鹿児島県立奄美図書館は, 県内の公共図書館(室)が多様なサービスを提供できるよう, ネットワークの構築や研究・研修の充実等に努めることにより, 「支える」図書館を目指します。

＜重点取組事項＞

- 1 市町村図書館支援の充実
- 2 ネットワークの構築
- 3 図書館運営研究の拠点
- 4 図書館協議会等の充実

＜基本目標2＞

鹿児島県立奄美図書館は, 県の情報拠点として, 県民や地域の課題解決支援が図れるよう, 多様化・高度化する県民のニーズに応える資料の収集・保存や情報提供等に努めることにより, 「役立つ」図書館を目指します。

＜重点取組事項＞

- 1 利用者に対応したサービスの充実
- 2 課題解決支援・学習支援の充実
- 3 郷土資料(地域資料)の網羅的な収集とデジタル化
- 4 図書館資料の計画的な整備

＜基本目標3＞

鹿児島県立奄美図書館は, 県民が新たな知を創出できるよう, 居心地の良い空間やコミュニケーション空間の充実を図りながら, 知識や知恵, 情報の交流の場づくりに努めることにより, 人と人, 人と情報を「つなぐ」図書館を目指します。

＜重点取組事項＞

- 1 場と人とをつなぐ環境づくり
- 2 人と人とをつなぐ環境づくり
- 3 情報と人とをつなぐ環境づくり

＜基本目標4＞

鹿児島県立奄美図書館は, 県民の読書活動を積極的に推進するとともに, 郷土の人や歴史等への理解を深める場の提供に努めることにより, 県民が生涯にわたって読書に親しみ, 郷土に学ぶ心を「育む」図書館を目指します。

＜重点取組事項＞

- 1 子供読書活動の推進
- 2 大人読書活動の推進
- 3 郷土の人・文化の理解と継承

【評価基準】

評価	内容
A	非常に良好 : 計画どおりに実施でき, 大きな成果がみられた。
B	良好 : 計画どおりに実施できた。
C	やや不十分 : 概ね計画どおりに実施できたが, 一部が実施できなかった。
D	不十分 : 計画どおりに実施できなかった。

基本目標 1 『支える』

鹿児島県立奄美図書館は県内の公共図書館（室）が多様なサービスを提供できるよう、ネットワークの構築や研究・研修の充実等に努めることにより、県民の読書活動を「支える」図書館を目指します。

1 令和4年度の取組について

	重点取組	取組状況		評価
		計 画	実 績	
1	市町村図書館支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有化を行うとともに連携を密にし、利用者サービスの向上を図る。 貸出文庫により、市町村立図書館をとおして県民への図書の貸出を行う。 図書館ポータルサイトを活用し、相互貸借の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館協会奄美支部の主催事業や図書館講座等の場を活用して連携を図った。 貸出対象の拡大を図りながら、利用の推奨に努めた。 ポータルサイトの円滑な運用を目指して、市町村図書館と連携を図った。 	B
2	ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> 市町村立図書館（室）における利用者サービスの向上を促進する。 図書館情報システムの適切な運用管理を行うとともに、セキュリティ対策の強化を行う。また、図書館情報システムを活用したサービスの利用促進を図るため、横断検索システムへの参加・利用促進を図るとともに、ホームページの情報更新に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な機会を捉え、働きかけたことにより、居住地返却が増加した。 横断検索システムの参加自治体数は目標値の34市町村に対し、1市2町増えて38市町村であった。働きかけにより参加意向を示す自治体も増えている。併せてシステムのソフトウェア更新も行った。 	B
3	図書館運営研究の拠点	<ul style="list-style-type: none"> 図書館講座等をとおして、図書館職員の資質向上を図る。 公立図書館（室）、学校図書館を訪問し、指導助言を行うとともに、来館研修や図書館司書実習を受け入れるなど、市町村や各種団体等の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を実施しながら、図書館講座では「読み聞かせ」について講義・実演を行った。 公立図書館（室）を訪問したり、来館研修を受け入れたりする等、地域の実態に応じた課題の解決に向けた意見交換を行った。 	B
4	図書館協議会等の充実	<ul style="list-style-type: none"> 大島地区内の公立図書館（室）職員からの意見・要望を参考にし、図書館運営や利用者サービスの改善・向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡会議を開催し、主催事業の実施状況について説明した。また、相互貸借のルールや各市町村の課題について協議した。 	B

2 指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	「県民一人当たりの貸出冊数」	3.46冊	3.27冊	94.5%
2	「市町村満足度」	80%	60%	82.5%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	図書館等への貸出冊数	1,120冊	625冊	55.8%
2	居住地返却の冊数	40冊	29冊	72.5%
3	横断検索への接続市町村数	34市町村	38市町村	111.8%
4	講座等への参加者数	50人	13人	26.0%
5	「大島地区図書館協議会」の参加者数	30人	26人	86.7%

3 評価と今後の取組について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、図書館職員に対する直接的な支援の機会が制限されたが、様々な機会を捉え支援を継続した。また、県民一人当たりの貸出冊数は前回の2.96冊より向上している。貸出文庫については、前年度よりも貸出冊数は減少したものの、アンケートによる満足度は高かったことや新規の学校数増等から、市町村への支援がなされたと考える。

今後は、コロナ禍からの脱却を図りながら、研修や訪問により図書館職員の資質向上に努めるとともに、横断検索システムの参加・利用促進を図り、また、市町村立図書館（室）への支援を行うことで「支える」図書館としての役割を充実させたい。

基本目標 2 『役立つ』

鹿児島県立奄美図書館は、県の情報拠点として、県民や地域の課題解決支援が図れるよう、多様化・高度化する県民のニーズに応える資料の収集・保存や情報提供等に努めることにより、県民に「役立つ」図書館を目指します。

1 令和4年度の取組について

	重点取組	取組状況		評価
		計 画	実 績	
1	利用者に対応したサービスの充実	・閲覧・貸出など利用しやすい環境整備とともに、様々な利用者サービスの向上に努める。	・視覚障害者及び文字を読むことが困難な利用者のため、バリアフリー図書コーナーを設置した。 また、新着コーナーを1階へ移動した。	B
2	課題解決支援・学習支援の充実	・郷土に関する事項の件名やレファレンス事例の電算入力、パスファインダーの作成等、レファレンスツールの充実に努める。 ・課題解決支援コーナーの充実を図る。	・目標値には達しなかったが、過去のレファレンスの入力は進んだ。また、電算入力件数も増加した。 ・課題解決支援コーナー4分野の資料収集、配架の工夫を行い、充実を図った。	B
3	郷土資料（地域資料）の網羅的な収集とデジタル化	・郷土の文化遺産として永く後世に伝えていくために網羅的で積極的な郷土資料の収集を行い、そのために各関係機関との連携を図り協力を依頼する。 ・郷土資料の保存と活用のため郷土新聞のデジタル化を進める。	・県行政資料や市町村発行資料など図書以外の収集も積極的に努めた。さらに、世界自然遺産の保全と活用に関する郷土資料の収集に努めた。 ・郷土新聞のマイクロフィルム化については、過去の受入が落ち着いた。ただし、目標値に届かなかった。	C
4	図書館資料の計画的な整備	・利用者の生涯学習に役立つ資料を幅広く収集するとともに、海音寺潮五郎文庫や雑誌スポンサーコーナー、障害者サービス資料の充実も図りながら、県民の調査相談に資する図書館、保存図書館としての資料の整備に努める。	・購入、寄贈などによる4,836冊の図書資料の計画的な受入を行い、蔵書冊数の令和4年度目標値とほぼ同数の248,423冊の蔵書となった。 また、障害者サービスのための大活字本の購入や雑誌スポンサー制度による雑誌の充実を行い幅広い資料の収集を行った。	B

2 指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	「貸出＋書庫閲覧冊数」	126,900冊	104,638冊	82.5%
2	「利用者満足度」	55%	54%	98.2%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	利用者満足度	55%	54%	98.2%
2	レファレンス検索データ入力件数	150件	125件	83.3%
3	郷土新聞のマイクロフィルム化	1,238本	781本	63.1%
4	蔵書冊数	248,780冊	248,423冊	99.9%

3 評価と今後の取組について

利用者に対応したサービスの充実については、障害者サービスのために職員研修を実施したり、バリアフリー図書コーナーを設置し、大活字本やLレブック等の資料を揃えたりして、充実を図った。課題解決支援・学習支援の充実については、レファレンス件数及び事例入力は前年度から順調に伸びており、また、貸出冊数を一般・児童合わせて10冊以内にするなど、利用者満足度向上に繋がったと思われる。今後も、郷土資料の収集や、郷土新聞のマイクロフィルム化を進め、購入、寄贈の計画的な受入を行い、図書資料の充実を図りながら、利用者にとって役立つ資料を幅広く収集するとともに、課題解決支援の充実のために「役立つ」図書館を目指していく。

基本目標 3 『つなぐ』

鹿児島県立奄美図書館は、県民が新たな知を創出できるよう、居心地の良い空間やコミュニケーション空間の充実を図りながら、知識や知恵、情報の交流の場づくりに努めることにより、人と人、人と情報を「つなぐ」図書館を目指します。

1 令和4年度の取組について

	重点取組	取組状況		評価
		計画	実績	
1	場と人をつなぐ環境づくり	・ 広報誌やホームページの内容の充実を図り、積極的な情報発信に努めるとともに、県の広報誌等を活用した広報活動を行う。	・ Instagramやホームページの投稿数を増やすとともに内容の充実を図った。また、広報誌等を利用した広報活動・情報発信に努めた。	B
2	人と人をつなぐ環境づくり	・ 利用者が多様な他者と交流し、図書館や図書資料を活用してコミュニケーションを楽しむことができるよう、交流イベントを開催する。 ・ 一般県民に館内3か所の研修室を有償（減免規定あり）で貸出を行う。	・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から参加者定員を約半数に削減して開催した。 ・ 研修室の活用について積極的な広報に努め、会議室の利用促進に努めた。	B
3	情報と人をつなぐ環境づくり	・ 図書館を生涯学習の活動や成果を発表する場として活用するため、ボランティア活動を支援する。 ・ HPやSNSを活用した情報提供や情報交流を推進する。	・ 令和3年度はボランティア活動を制限した期間もあったが、令和4年度は制限なしで、多くの参加者があった。 ・ Instagramへ積極的に最新情報を掲載し、フォロワー数は目標値を大幅に上回った。また、3月からはFacebookを開設した。	B

2 指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	「入館者数」	135,000人	93,583人	69.3%
2	「利用者満足度」	70%	72%	102.9%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	利用者満足度	70%	72%	102.9%
2	交流イベント参加者数	160人	46人	28.8%
3	ボランティア活動者数	240人	164人	68.3%
4	HPのリンク数	9種類	5種類	55.5%
5	SNSフォロワー数	240人	356人	148.3%

3 評価と今後の取組について

新型コロナウイルス感染症拡大防止による影響で、入館者数等が目標値を下回ったが、交流イベントは実施することができた。制限された人数の中多くの参加者が会った。また、島内の2校の県立高校生もボランティアとして参加し、良い交流となった。Instagramについては、定期的に更新したことなどでフォロワー数が昨年度に引き続き大幅に増加しており、より良い環境づくりを図ることができた。

今後は、魅力ある交流イベントの実施に努めるとともに、更に利用環境を充実させていきたい。また、3月末から開設したFacebookも活用し、SNSの拡大を図る。なお、広報については紙面の工夫、場の拡充を行い情報発信に努める。このような取組をとって「つなぐ」図書館としての役割を果たしていきたい。

基本目標 4 『育む』

鹿児島県立奄美図書館は、県民の読書活動を積極的に推進するとともに、郷土の人や歴史等への理解を深める場の提供に努めることにより、県民が生涯にわたって読書に親しみ、郷土に学ぶ心を「育む」図書館を目指します。

1 令和4年度の取組について

	重点取組	取組状況		評価
		計画	実績	
1	子供読書活動の推進	・読書指導者等研修会等を開催し、学校や家庭、地域における読書活動の輪を広げる。併せて、各種講座や講師派遣の中で、子供読書推進についての周知を図る。	・読書指導者等研修会を実施し、子供読書活動の重要性と意義、具体的な進め方について周知を図った。	B
2	大人読書活動の推進	・65歳以上を対象にした音読教室を開催することで、仲間作りの場として、図書館をより積極的に活用されるきっかけとする。	・予定していた6回を全て実施することができ、大人が読書活動を楽しむ機会を提供した。	B
3	郷土の人・文化の理解と継承	島尾敏雄記念室企画展、講演会、郷土コーナー企画展や「あまみならでは学舎」を開催し、県民の生涯学習の一助とするとともに、図書館利用の促進につなげる。また、広報活動として広報誌やホームページの充実を図り、報道機関への情報提供を行う。	・「あまみならでは学舎」は、感染症対策を講じながら全7回全て実施できた。県民の郷土への興味や理解を促すような展示や講演会 ・広報活動が実施できた。	A

2 指標の達成状況

(1) 主要指標

	主要指標	目標値	実績値	達成割合
1	「研修会等の参加者数」	560人	593人	105.9%
2	「受講者満足度」	86.0%	97.5%	113.4%

(2) 参考指標

	参考指標	目標値	実績値	達成割合
1	講座等参加者数	106人	51人	48.1%
2	大人向けイベントの回数	6回	6回	100.0%
3	講演会や企画展の参加者数	454人	467人	102.9%

3 評価と今後の取組について

子供読書活動の推進や大人読書活動の推進については、コロナ禍の影響を受けながらも予定通り開催できた。また、参加者からは、好意的な感想が多かった。受講者からの満足度も高い。郷土の人・文化の理解と継承について、「あまみならでは学舎」は予定されていた全7回全て実施できた。アンケートにおいては受講者満足度が非常に高かった。研修会、講演会、企画展など参加者が確実に増加した。

今後も、研修会等の実施方法を工夫し、大島地区民の読書活動の推進を図りながら、生涯に渡って読書に親しみ、郷土に学ぶ心を「育む」図書館を目指す。